

(II-10)

大規模土工に適した積算システムの開発

Development of Estimation System
for Earth Moving

(株)システムズ ○上田 隆 *

同上 小形 嘉美 *

By Takashi UEDA, Yoshimi OGATA

大規模土工における積算業務は一般建設業の積算とはなじまないところが多分にある。通常、歩掛りと呼ばれるものは、土工機械の積算においては単位時間当たりの作業能力にあたる。また、単価においても、機械1台あたりの資源単価が比較的高価であり、作業条件の変化により、一概に決めることが難しい。さらに、機械の投入計画における山積み山崩しが積算結果に重要な影響をおよぼす。そこで、大規模機械土工に適した積算システムを開発した。当システムは建設機械の多様な作業能力の算定方法にユーザレベルでプログラミング無しで対応できるようにしたことを始め、多くの特色を有する。現場でも運用が可能なようにハードウェアはパソコンを利用している。

【キーワード】 積算システム、建設機械、大規模土工

1. はじめに

近年、建設工事の機械化、自動化への動きはますます加速されているようである。その原因としては深刻となりつつある人手不足、そして生産性向上への強い意欲があげられる。歴史的に機械化の進んでいた大規模土工の施工においても例外ではない。

合理的な建設工事を行うためには合理的な積算が求められる。大規模土工においてもその管理レベルの向上のため、正確かつ迅速な積算方法が強く求められている。従来、ニーズの多い一般建設工事の積算システムでは優秀なパッケージソフトも多数世に出ている。また、自社開発に取り組んでいる建設会社の事例も多い。

ここでは、特に大規模土工における機械化施工にターゲットを絞った積算システムの開発事例を紹介する。

2. 機械土工積算システムの概要

(1) 施工金額の算出方法

一般に工事費の積算は、単位出来形当たりの投入資源数量としての「歩掛り」、そして資源の「単価」の積として施工単価を算出する。そして、施工単価に施工数量を乗じて施工金額を求める。

しかし、機械土工では従来より、「作業能力」といわれる時間当たり施工数量をまず算出する。そして、施工数量より延べ稼働時間を算出、時間当たりの単価を乗じることによりその施工金額を算出する。

表-1にその要約を示す。

(2) 機械土工積算の問題点

機械土工の積算方法も一見、論理的ではある。しかし、一般工事の積算方法と同じく多くの問題点を有している。

まず、作業能力の算定式による算出結果が必ずしもベテランの現場経験者の経験値と一致しないことがある。作業能力算定式は、いわば建設機械の施工をモデル化したものである。当然ながら完全にモ

* 情報グループ 03-3837-3467

表-1 一般工事と機械土工の積算方法のまとめ

一般積算	$\text{単価} = \text{歩掛り} \times \text{資源単価}$ $\text{施工金額} = \text{単価} \times \text{施工数量}$
機械土工	$\text{作業能力} = (\text{建設機械の作業能力算定式より算出})$ $\text{延べ稼働時間} = \frac{\text{施工数量}}{\text{作業能力}}$ $\text{施工金額} = \text{延べ稼働時間} \times \text{機械の稼働時間あたり単価}$ $(\text{施工単価} = \frac{\text{施工金額}}{\text{施工数量}})$

ル化できているとはいがたい。シミュレーション的な手法を取り入れてより精度の高いモデル化を試みた例もあるが実用性に乏しい面もある。

次に、機械土工の場合、工程計画が工事費に大きく関わってくる。通常、1台当たりの単価が高いことがその大きな原因である。

例として、俗に言う「張り付け」が発生した場合。つまり、工程計画上、作業能力を十分に發揮できないまま現場に置かざるを得ないような場合である。作業能力から算定した単価とはかけ離れた費用が発生する場合がある。

あるいは、特に大型重機の場合、搬入・搬出に多額の費用を要することがあげられる。山積み山崩しが工事費にダイレクトに影響する。

これらの問題点の解決を念頭に当システムは開発されている。次にそれについて説明する。

3. 作業能力の算定と機械経費の算出

図-1に当システムの画面上の代価表の例を示す。工種毎に代価表を積み上げて工事費を積算するということについては一般的な積算となんら変わるものではない。しかし、当システムでは、機械土工の専用システムとして、図-1にあるように機種、作業能力、延べ台数、月当たり機械経費といった機械土工特有の項目を使用している。この中のポイントは前に述べたように作業能力と機械経費の合理的な算出である。

(1) 作業能力の算定

作業の内容と施工する機種を与えられると作業能力の算定の方法が定まる。画面下のファンクションキーを押下することにより、図-2のようなウィンドウが開かれる。このウィンドウは。

- a) 作業能力の計算方法を解説する部分
- b) 計算式に代入するパラメータをメンテナンスする部分
- c) 想定する現場の作業条件を作業効率として入力する部分
- d) 計算結果を表示する部分

新・麥 能力H 月經費 參 照 登 錄 中 止

図-1 機械土工積算システム 代価表画面例

機械土工代価表		変更処理																	
2	作業能力の算定	作業	1:切り崩し 機種 01200:D9N-R																
$C_m = 0.0381 + 0.20$ $Q = \frac{60 \times q \times f \times E}{C_m}$		I:平均掘削押土距離(m) f:土質換算係数 E:作業効率 Q:運転時間当たり作業量 (m ³ /h) q:1回の掘削押土量(m ³) C_m:サイクルタイム(min)																	
*作業条件:過酷、土質:硬岩の場合は リッピング可能な岩																			
$C_m = 1.15$ $E = 0.75$ $Q = 372.5$		<table border="1"> <thead> <tr> <th>効率名称</th> <th>内 容</th> <th>値</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E_1 作業条件</td> <td>普通</td> <td>0.65</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>E_2 土質</td> <td>土砂</td> <td>1.00</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>E_3 押し土勾配</td> <td>-10%</td> <td>1.15</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>		効率名称	内 容	値	選択	E_1 作業条件	普通	0.65	2	E_2 土質	土砂	1.00	1	E_3 押し土勾配	-10%	1.15	3
効率名称	内 容	値	選択																
E_1 作業条件	普通	0.65	2																
E_2 土質	土砂	1.00	1																
E_3 押し土勾配	-10%	1.15	3																
内容OK... [Y(回) / N(↑)] [ESC]:中止																			

図-2 作業能力算定画面

作業能力マスタメンテ			変更処理			
作業 機種	1 : 切り崩し 01200 : D9N-R					
q :	11.90					
画面表		$C_m = 0.0381 + 0.20 \frac{60 \times q \times f \times E}{C_m}$ <p style="margin-top: -10px;">l : 平均掘削押土距離(m) f : 土質換算係数 E : 作業効率</p> <p style="margin-top: -10px;">Q : 運転時間当たり作業量 (m³/h) q : 1回の掘削押土量(m³) C_m : サイクルタイム(min)</p> <p style="margin-top: -10px;">* 作業条件: 過酷、土質: 硬岩の場合は リッピング可能な岩</p>				
計算式 1		$CM = 0.0381 + 0.20$ $LQ = (60 \times SQ \times FF \times EF) / CM$				
作業条件		効率1 ディフォルト 2	効率2 ディフォルト 1	効率3 ディフォルト 3	土質	押土平均配
内 容 1	良好	0.85	土砂	1.00	+ 10%	0.86
内 容 2	普通	0.65	軟岩	0.87	+ 0%	1.00
内 容 3	不良	0.50	0.00	0.00	- 10%	1.15
内 容 4		0.00		0.00	- 20%	1.22
内 容 5		0.00		0.00	- 30%	1.25

新・変 ■■■■■ 登 録 中 止 ■■■■■

図-3 作業能力マスター画面

の4つに分かれる。

画面左上の作業能力の計算方法を表示する部分はいわばノウハウの蓄積した知識データベースである。そのノウハウに基づいてパラメータあるいは作業効率を現場の諸条件に合わせることにより、合理的な作業能力を算定する。

図-3はその作業能力の算定根拠を登録してある作業能力マスターのメンテナンス画面である。建設機械の作業能力の算定方法は機械の進歩と共に、また実績値の変化と共に変わる。作業能力計算式をプログラム中に記述した場合、常にプログラムのメンテナンスの必要性が生じる。そこで、当システムでは作業能力算定のロジックをプログラムから分離し、データとしてユーザに開放した。作業能力算定式およびその基本データをユーザが手軽にメンテナンスできるようになっている。図-3の中段の計算式がそれである。このことにより、当システムはプログラムのメンテナンスの発生を極力おさえるとともに計算ロジックそのものをユーザが自分で管理できるようにしている。

(2) 機械経費の算出

建設機械の積算をする上で作業能力の算定に並んで重要なのが機械経費の算定である。作業能力算定と同じく画面下のファンクションキーを押下することにより機械経費算定のウインドウが開かれる。

図-4にその例を示す。機械経費も現場の作業条件により、千差万別に変化する。ユーザは現場の条件に応じてウインドウの中の数値をメンテナンスできる。変化した数値に応じてリアルタイムに機械経費合計が再計算されて、表示される。

また、燃料単価およびオペレータの入件費は別に登録されている資源単価のマスターと連動しており同一工事での整合性を保っている。

機械土工代価表			変更処理			
NO.	工種	細目	数量	単位	単価	金額
202	道路掘削土砂	L=170	80000.0	m ³	402.6	32210088
		十質1材積受け工法4条件2距離			月稼働	備考
		土砂 地 メン 普通	170		180.0 メン	170m
作業	作業	量単機種	日稼働	作業能力	延台数	月経費
3 運搬						1.0
5 敷均し						422
4 転圧						5.1
1 切り崩						370
3 運搬						9.2
		日当たり機械経費の算定			機種	01200 : D9N-R
		1.損料 (基準損料 2031000, 180.0Hr)	=	2031000		9.2
		0×180.0Hr	=	0		0
		3.修理費 12.00×	=	108000		157
		50×180.0Hr	=			2.8
		4.消耗品費 12.00×	=	1296000		081
		600×180.0Hr	=			4.6
		5.燃料油脂費 (0208007灯油 1.050×60)	=	50.0		058
		50.0× 100.01/h×180.0Hr	=	945000		1
		6.人件費 (0102011オペレータA)	=	620000		1
		7.機械借上費 0.0× 0.0	=	0		1
		8.ダンプ借上費 0.0× 0.0	=	0		1
		合計	=	5000000		1

[ESC]:中止

月経費 確認 中止

図-4 機械経費算定画面

4. 機械投入計画作成の自動化

機械土工における工程計画は建設機械の投入計画という意味において非常に重要な意味を持っている。現場での施工管理上、投入資源の適切な山崩しを行い、同種の資源の投入数量の均一化を図るべきである。しかし、機械土工においては施工管理上の問題ばかりではない。特に1台当たりの搬入搬出費用の高額な大型重機にとっては直接に施工費用に結びつく。搬入搬出回数を極力抑えた工程計画を組むことは積算時点においても大きな課題であるといえる。

当システムではバーチャルチャートをイメージした工程を工種別に自由に画面入力することにより工程計画を作成している。図-5はその入力例である。この画面に入力することにより、工種別の資源投入計画が自動作成される。かつ同時に、同一機種が集計され、機種別の機械投入計画が作成される。

図中の整数値は月毎に投入する資源の重みを表している。同一の工種であっても、「段取り時、仕上時に資源投入数量を減らす」という現場での資源投入パターンを表現できるようになっている。当シス

テムでは、いたずらに最適化を目指すのではなく、現場の段取りを思い浮かべながら手軽に試行錯誤を行えることを目的とした。

また、図-6は機種別に山崩しを行うために用意された画面である。工程計画を試行錯誤的に作成した後、最終的にこの画面で山崩し作業をおこなう。その結果は機種毎の搬入搬出回数として集計され、搬入搬出の単価を乗じて、間接経費の機械運搬費として計上される。

5. おわりに

大規模土工に適した積算システム構築にあたって、いくつかの実現できたアイデアについて報告しました。このシステムの根底に流れる思想はコンピュータシステムがいかに第一線で活躍する土木エンジニアの有能なスタッフになれるかということです。未だ開発の緒についたばかりであり、その成果を報告できるものではありません。ご意見をいただければ幸いです。

機械投入計画生成

登録処理

1991年03月21日～1992年03月20日

元積No. B0A11-01 丁事名 近畿自動車〇〇丁事

No.	工種	91 3	92 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
101	伐開除根	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
202	道路掘削 土砂	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
203	道路掘削 土砂	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
204	道路掘削 土砂	0	0	0	1	1	1	2	2	1	0	0	0	0	
205	道路掘削 土砂	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
206	道路掘削 土砂	0	0	1	1	2	2	2	1	0	0	0	0	0	
207	道路掘削 土砂	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	
301	道路掘削 軟岩	0	0	0	0	0	0	1	3	3	3	0	0	0	
302	道路掘削 軟岩	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	3	2	1	

[ROLL/UP]：前頁 [ROLL/DOWN]：次頁

新・変 ■■■ 前項 次項 登録終了 ■■■

図-5 工程計画入力画面

山崩作業

変更処理

1991年03月21日～1992年03月20日

機種コード 01503 機種 DG-Lap

	04	05	06	07	08	09	10	11	12	01	02	03	
1990													2.0 2.0
1991	2.4 3.0	4.7 3.0	1.5 3.0	0.8 2.0	1.9 2.0	1.9 2.0	1.9 2.0	1.9 2.0	1.9 2.0	0.3 0.3	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
1992													
1993													
1994													
1995													
上：山積投入台数				山崩延台数				山積延台数				19.3	
下：山崩投入台数				21.3									

新・変 ■■■ 登録中 正 ■■■

図-6 投入資源山崩し画面